

静岡工区遅れ 国に調整要請 リニア期成同盟会

JR東海のリニア中央新幹線建設を巡り、長野など沿線9都府県でつくる建設促進期成同盟会は6日、本年度の総会を都内で開いた。大村秀章会長（愛知県知事）はあいさつで、南アルプストンネル（全長25キロ、下伊那郡大鹿村―山梨県早川町）のうち、トンネル掘削工事が未着手の静岡工区（8・9キロ）について「スピード感を持って調整してほしい」と述べ、2027年の開業目標の厳守を求めた。

静岡工区は大井川の流量減少問題などで地元協議が難航し、着工のめどが立っていない。大村会長はあいさつで、5日に静岡市で開いた中部圏知事会議の場で、同盟会に加盟していない静岡県の川勝平太知事に対し、開業目標の遅れは「受け入れがたい」と伝えたと説明。JR東海との協議や早期の工事着手を求めたとした。

同盟会総会に来賓で出席した同社の金子慎社長は同工区について「進捗（しんちよく）が遅れ、後の工程で取り戻すのが難しくなりつつある。この状態が続けば開業時期に影響を及ぼしかねない」と述べ、開業が遅れる可能性に改めて言及した。

総会では、リニアの早期整備や、駅周辺のまちづくりや交通網の整備への支援など地域活性化につながる施策の推進を求める決議を採択した。